

乳幼児が保育者を「見る」ことの意味

— 0 歳児クラスの参与観察を通して —

高野美千絵 (東京家政大学大学院生) *

1. 目的

まだ言葉で思いを伝えられない乳児期の子どもは表情や身振り、手振り等自分の身体を通してその思いを伝えようとする。こうした身体的表現のうち、視線について遠藤 (2005) は、ヒトにおいて視線がノンバーバル言語として機能していることを述べ、視線も思いを伝えるための一つの手段であるということを示している。これまで乳幼児の視線理解の発達の研究は多くなされているが、視線そのものが持つ意味に関する研究は少ない。

本研究では、子どもの視線、「見る」行為に注目することで、そこにどのような意味が込められているかについて捉えることを目的とする。

2. 対象と方法

育児担当保育を取り入れている私立 M 保育園の 0 歳児クラスを対象とした。20XY 年 4 月～9 月までの午前中の保育を観察し、筆記及びビデオカメラによる記録をした。その中で子どもが意図的に大人に視線を向ける場面での事例を収集し、分析を行った。

3. 結果

子どもが大人を「見る」ときの表情やその前後の状況からその思いを 10 のカテゴリーに分類した。また、その思いによって視線を向ける対象者が異なることが明らかとなった。

① 「見る」ことに込められた思いの違い

分類した思いの特徴を下記の表にまとめた。例えば「喜び」は保育者の姿を見つけたときや好きな絵本を読んでもらったときに大人を「見る」行為の中に込められる。「承認」は積み木を積むことが出来た等何かを達成したときや自らの働きかけに対する大人の反応を「見る」こと等自分の行為を認めてほしい場面をさす。また「警戒」は人見知りをして大人のことをじっと「見る」ことや保育者が普段と異なる姿であるときに「見る」ことに込められる。

< 「見る」ことに込められた思いの分類表 >

| 思い | 「見る」とき (または「見た」後) の子どもの姿 |
|----|--|
| 喜び | 保育者の姿を見つめる。保育者と目が合う。自分の要求通りに大人が応える。等 |
| 共感 | 保育者と同じ動きをする。友達と同じ動きをする。保育者の言葉と自分の身体の状態が同じである。等 |
| 承認 | 遊びの中で目的を達成する。行動した後大人を見る。自らの働きかけにより変化が起きる。等 |
| 期待 | もう一度同じことを求める。保育者の動きを予測する。保育者と追いかけてくる。等 |
| 不安 | 保育者の姿が見えなくなる。嫌な経験する。友達が泣く姿を見た後。等 |
| 警戒 | 人見知り。保育者が普段と異なる姿である。等 |

| | |
|----|--|
| 確認 | 保育者の位置。生活の流れの確認。食事に振り返る。等 |
| 呼ぶ | 保育者を呼ぶために声を出す。保育者の言葉に反応して行動を起こし、保育者を待つ。等 |
| 訴え | 自分の思いと異なる。指差しをしながら見る。自分が思うように行動することが出来ない。等 |
| 興味 | 保育者と他児のあそびの様子を見る。わらべうたをする様子を見る。等 |

② 「見る」対象者による思いの違い

① で示した「見る」ことに込められた思いは視線を向ける対象者により、事例の頻度が異なる。特に担当保育士を「見る」ことは「喜び」の場面や「確認」の場面、「不安」を感じた場面が多く見られた。担当保育士に関係なく、その場にいる大人を「見る」ことには受けとめてもらうことよりも自分が感じた思いを素直に表現した行為（「承認」等）の中で多く見られた。また、担任以外の大人に対しては「警戒」して「見る」場面が多くあった。

4. 考察

このように、乳児期からすでに「見る」を通して、その思いを伝えようとしていることが明らかとなった。そのことはつまり、視線が乳児期の身体的表現として機能していることを表している。保育者が子どもに視線を向けるときは子どもの様子や細かい変化を逃すまいと常に気を張っているが、子どもが大人に向ける視線にはその子自身の思いが溢れている。見逃してしまいがちな子どもの視線を思いとして受けとめ、より丁寧に応えていく必要があるのではないだろうか。

また、子どもと保育者との関係性の違いにより視線の意味は異なることが明らかとなった。特に担当保育士に向ける視線には、自分を受けとめてくれるという信頼のもと、期待を込めて「見る」ことが多い。この期待は日々の応答的な対応から生じる温かなやりとりの積み重ねによるものであろう。

子どもがどのような場面で大人を「見る」のかを把握することで、子どもの思いに気付くことが出来る。そしてそれに対して保育者が細やかに応えることが、子どもと保育者の関係性の深まりにつながるのではないかと考える。

5. 今後の課題

今後の課題としては、子どもの月齢差や時期、経験による「見る」ことの意味の違いを明らかにしていきたい。

参考文献

遠藤利彦「第四章 発達心理学から見た共視現象」北山修編 (2005)『共視論—母子像の心理学』講談社

児童学児童教育学専攻 若林美千絵
日本保育学会第 71 回大会 宮城学院女子大学 (仙台市)
H30.5.12～H30.5.13
* 人間生活学総合研究科 児童学児童教育学専攻